

浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会

全体会議録

- 1 開催日時 令和4年6月29日 午前10時から正午
- 2 開催場所 和合せいれいの里 研修センター 2階 研修室1
- 3 出席状況
- | | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | 浜松市リハビリテーション病院
ウィズ蜷塚
NPO 法人地域生活応援団あくしす
在宅支援センターぱびるす
ワークセンターふたば
地域包括支援センター和合
浜松市障害者相談員
浜松市中区民生・児童委員協議会
浜松市社会福祉協議会浜松地区センター
浜松市教育委員会指導課（SSW）
相談支援事業所くすのき |
| 事務局 | 浜松市中障がい者相談支援センター
浜松市中区社会福祉課 |
| その他 | 浜松市障がい者基幹相談支援センター |
- 4 傍聴者 あり（会場・Zoom 参加） 25事業所34名
- 5 議事内容
- 1 浜松市障がい者自立支援協議会について
 - 2 浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会について
 - 3 浜松市中障がい者相談支援センター 令和3年度実績報告
 - 4 意見交換
- 6 会議録作成者 浜松市中区社会福祉課障害福祉第二グループ 飯塚
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・

8 会議記録

1 開 会 司会 中障がい者相談支援センター

2 あいさつ 中区社会福祉課長

3 議 題

(1) 浜松市障がい者自立支援協議会について

- ・ 資料2ページから5ページに基づき報告
- ・ 年間計画について説明
- ・ 各部会ワーキングの取り組みについて説明
- ・ 協議会組織図について説明

(2) 浜松市障がい者自立支援協議会中エリア連絡会について

資料6ページより令和4年度体制について説明。

ア 部会等報告（資料7ページに基づき説明）

イ 日中サービス支援型共同生活援助の評価・助言について

- ・ 資料8、9ページに基づき説明。
 - ・ 第2回エリア全体会にて意見交換を行う予定。
 - ・ 令和3年度実施状況報告書（ソーシャルインクルーホーム浜松神田町、グループホーム RASIEL 高丘）を構成員向けに配布。
 - ・ 意見交換に向けて構成員向けのGH見学会を実施する旨説明。
- 意見交換の方法について（構成員より聴取）
- ・ 良い意味で比較することができるので同時に行えばいいと思う。
 - ・ 2者同時に行うことでお互いに参考になるかもしれない。メリット、デメリットを比較し、より利益の大きい方で進めてほしい。

(3) 浜松市中障がい者相談支援センター 令和3年度実績報告

- ・ 資料10ページから27ページに基づき説明

(4) 意見交換

- ・ 中センターの実績報告における機能強化学業の相談実績は個別の相談実績とは異なるのか？
→個別の相談実績とは異なるものとして計算されている。
- ・ 連絡会の活動について、当事者の参加が少ないと感じる。今後も当事者の参加が促進するような取り組みを行うとともに、当事者に対して連絡会の活動を知ってもらえるような取り組みができるとよい。例えば啓発活動にしても市民向けだけではなく当事者、家族向けにも啓発活動を行ってほしい。
- ・ 支援者の専門性を高めることも重要だが、当事者同士が集まる機会を作っていてほしい。
- ・ 中センター実績報告に対して、相談内容等の分類だけではその相談の背景にあるものまではわかりにくい。なぜそのような相談に至ったのかという思いや原因についても分析できるとよい。
- ・ 障がい分野も高齢分野も相談傾向は変わらないと感じた。世帯の中で複合的な課題のあるケースが増加傾向にあり、高齢分野の仕組みだけでは解決できないものが増えている。障がい、児童等他分野と連携する必要がある。
- ・ これまで 80・50 問題と言われてきたが、最近は 90・60・30・5 問題と言われるまで世帯内に複合的な問題を抱えているケースが増えている。
- ・ 高齢分野の地域ケア会議において各ライフステージにおける相談窓口を整理してみたが、乳幼児から児童期における行政機関のワンストップ窓口が見えにくいと感じた。どこかの機関で状況をキャッチしているのに、本人の成長とともに関わる機関が変わり、その情報がこぼれ落ちてしまうことが多いと感じる。
- ・ サポートプランについて。地域包括支援センターも委託でケアプランを作成しているが、件数の問題で捌ききれなくなっている。障がい分野のサポート

プランがどのようになっていくのかは参考にしていきたい。

- 切れ目のない支援、伴走型の相談支援の重要性を感じる。子ども支援においては今後子育て世代包括支援センターが設置されるが、その役割や機能については検討が必要なのではないかな？
- 子ども支援においては虐待ケースと養護ケースの差が大きく、虐待ケースでなければ（虐待事案がなければ）支援が終わってしまうことがある。関わる機関が変わっていくため支援がぶつ切れになってしまうことがある。
- 子ども分野において地域で支援していく中で社会資源の少なさを感じている。社会資源を作っていくこと、連携を深めることが必要である。
- 今後子育て支援包括支援センターが浜松市でも立ち上がっていくが、その機能をどのように担保していくのか議論が必要であると感じる。
- 中エリア連絡会において子ども分野を取り扱う場がなかったが、子ども部会準備会ができたことの意味は大きい。併せてライフステージを見据えた中長期的な対応ができるとよい。
- 相談件数やサービス利用件数等障害福祉サービス分野は右肩上がりの状況が続いている。今後どのように推移していくのか不安はある。そのような状況の中で相談支援体制をどのように強化していくのかは課題である。
- 啓発部会において福祉避難所について情報発信をしていくとのことであるが、福祉避難所は情報提供とともにその運営運用についても検討が必要である。
- 強度行動障がいのある方の対応スキルを深めていくこと、関係機関のネットワークづくりをしていくことができるとよい。北エリア連絡会での取り組みを参考にしていくことができるとよいのではないかな。

4 閉 会 事務局

以上